

古典を読む



文書作成と
表現の技術

伝える
媒の技術



ニセコ・
フィールド
スタディ

インター
シップ



修学旅行の
企画を立てる



2022年度

教養深化プログラム

教養深化プログラムは、民間企業・公務員・教員などへの就職を希望する修士課程および博士後期課程の学生を対象とする教育プログラムです。

大学院の専門教育で専門分野の研究をさらに深めるとともに、人文社会科学諸分野の総合的な学修および文理融合・学際的な学修を通じて、「課題を発見し解決する力」、「俯瞰する力」、「複合的に考え正しく伝える力」、「行動する力」を修得し、専門知識を実社会で役立つ実践力の向上を目指します。

デジタル
クリエイティブ
基礎

科学と社会



不確実性との
向き合い方



キャリア
マネジメント
セミナー



キャリア形成



インター
シップ
事前準備

プログラム申込み

| | |
|-------|---|
| 対象学生 | 2022年度に大学院の修士課程・博士後期課程の在籍学生 |
| 定員 | なし(参加要件を満たせば誰でも参加できます) |
| 申込み方法 | 専用フォーム (申込には指導教員の許可が必要です) https://forms.gle/b66x2uLGKGn8nhFB6 |
| 募集期間 | 2022年4月1日(金)~5月13日(金) |



プログラム説明会

2022年4月1日(金)・6日(水)・12日(火) 12:15~12:40
いずれもハイブリッド形式(詳細は申込者に案内します)
プログラムの内容や参加方法を詳しく説明します。
(各回同内容)

●プログラム説明会には下記URLまたは右QRコードよりお申込みください。
<https://forms.gle/QDMNiCXhBQYZ3zG3A>



プログラム開講式

2022年6月3日(金)(詳細:後日連絡)
プログラム生全員が参加する開講式・ガイダンスです。
(変更・追加の情報は教養深化プログラムのWEBサイトをご確認ください)

開講科目 一覽

2022 年度開講科目

【教養深化科目群】プログラム生限定科目

教養深化特別講義

| 授業題目 | 単位数 | 開講ターム | 担当教員(所属) |
|------|-----|-------|---------------------------------|
| 北海道学 | 1 | 冬 | 平川 全機 <small>ほか</small> (文学研究院) |

教養深化特別演習(基礎)

| 授業題目 | 単位数 | 開講ターム | 担当教員(所属) |
|--------------|-----|-------|--------------|
| I 古典を読む(1) | 1 | 秋 | 谷古宇 尚(文学研究院) |
| II 古典を読む(2) | 1 | 夏 | 川口 暁弘(文学研究院) |
| III 古典を読む(3) | 1 | 冬 | 梅村 尚樹(文学研究院) |
| IV 古典を読む(4) | 1 | 秋 | 押野 武志(文学研究院) |
| V 文書作成と表現の技術 | 1 | 冬 | 加藤 重広(文学研究院) |
| VI 伝える媒の技術 | 1 | 夏 | 蔵田 伸雄(文学研究院) |

教養深化特別演習(総合)

| 授業題目 | 単位数 | 開講ターム | 担当教員(所属) |
|-----------------|-----|-------|---------------------------------|
| I ニセコ・フィールドスタディ | 2 | 夏 | 宮内 泰介(文学研究院) 平川 全機(文学研究院) |
| II インターンシップ | 2 | 通年 | 川口 暁弘 <small>ほか</small> (文学研究院) |
| III 修学旅行の企画を立てる | 2 | 夏 | 川口 暁弘(文学研究院) |

サイエンスリテラシー特別演習

| 授業題目 | 単位数 | 開講ターム | 担当教員(所属) |
|-----------------------------------|-----|-------|--|
| I 科学と社会 | 1 | 秋 | 蔵田 伸雄(文学研究院) 種村 剛(高等教育推進機構) |
| II 不確実性との向き合い方: リスク・ガバナンスの観点から | 1 | 秋 | 大沼 進(文学研究院) |
| III デジタルクリエイティブ基礎 | 1 | 夏 | 大沼 進 <small>ほか</small> (文学研究院) 近藤 祐爾(アドビ) |

【ジェネリックスキル科目群】

ジェネリックスキル特殊講義

| 授業題目 | 単位数 | 開講ターム | 担当教員(所属) |
|----------------|-----|-------|----------------------------------|
| キャリアマネジメントセミナー | 2 | 1学期 | 吉原 拓也 <small>ほか</small> (人材育成本部) |

ジェネリックスキル特別演習

| 授業題目 | 単位数 | 開講ターム | 担当教員(所属) |
|-----------------|-----|-------|-------------------------------|
| I キャリア形成 | 1 | 通年 | 川口 暁弘(文学研究院) 吉原 拓也(人材育成本部) |
| II インターンシップ事前準備 | 1 | 1学期 | 川口 暁弘(文学研究院) |

- 授業の詳細は必ずシラバスで確認してください。
- 「キャリアマネジメントセミナー」、「キャリア形成」の履修には、人材育成本部のWebサイトからHi-Systemへの登録が必要です。
- 「インターンシップ事前準備」の履修には、キャリアセンターの就職支援システムを利用します。キャリアセンターのWebサイトから利用の仕方を確認してください。

プログラム修了要件

教養深化特別講義および教養深化特別演習(基礎)から2単位以上、教養深化特別演習(総合)を2単位以上、サイエンスリテラシー特別演習から2単位以上、ジェネリックスキル科目群から2単位以上を満たした上で、10単位以上取得することで教養深化プログラムを修了した証としてディプロマを授与します。

| 科目名 | | 必要単位数 | |
|--------------|----------------|-------|---|
| 教養深化科目群 | 教養深化特別演習(基礎) | 2 | 2 |
| | 教養深化特別講義 | | |
| | 教養深化特別演習(総合) | | |
| | サイエンスリテラシー特別演習 | | |
| ジェネリックスキル科目群 | | 2 | |

- ディプロマ取得には2年間かかります。博士後期課程の方は2年を超えて履修したり、修士課程で取得した単位と合わせてディプロマを取得することもできます。
- ディプロマは修士課程の学生には修了時、博士後期課程の学生には修了要件を満たした年度末に授与します。
- 5単位以上を取得することで、一部履修を認定する履修証明書(予定)を発行します。

履修 モデル

科目は自由に組み合わせて履修することができますが、ディプロマを取得するための履修モデルを例示します。

【さまざまな科目をバランスよく取りたい方】

| | 1年目 | | | | 2年目 | | | |
|----------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | 春ターム | 夏ターム | 秋ターム | 冬ターム | 春ターム | 夏ターム | 秋ターム | 冬ターム |
| 教養深化特別講義「北海道学」 | | | | ●—● | | | | |
| 教養深化特別演習(基礎)「古典を読む」 | | | ●—● | | | | | |
| 教養深化特別演習(基礎)VI「伝える媒の技術」 | | ●—● | | | | | | |
| 教養深化特別演習(総合)I「ニセコ・フィールドスタディ」 | | | | | | ●—● | | |
| サイエンスリテラシー特別演習II「不確実性との向き合い方」 | | | ●—● | | | | | |
| サイエンスリテラシー特別演習III「デジタルクリエイティブ基礎」 | | ●—● | | | | | | |
| キャリアマネジメントセミナー | ●—● | | | | | | | |
| ジェネリックスキル特別演習I「キャリア形成」 | ●—● | | | | | | | |

【諸分野の知を中心に深めたい方】

| | 1年目 | | | | 2年目 | | | |
|-------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | 春ターム | 夏ターム | 秋ターム | 冬ターム | 春ターム | 夏ターム | 秋ターム | 冬ターム |
| 教養深化特別講義「北海道学」 | | | | ●—● | | | | |
| 教養深化特別演習(基礎)「古典を読む」×3 | | ●—● | | ●—● | | | ●—● | |
| 教養深化特別演習(総合)III「修学旅行の企画を立てる」 | | | | | | ●—● | | |
| サイエンスリテラシー特別演習I「科学と社会」 | | | ●—● | | | | | |
| サイエンスリテラシー特別演習II「不確実性との向き合い方」 | | | ●—● | | | | | |
| ジェネリックスキル特別演習I「キャリア形成」×2 | ●—● | | | ●—● | ●—● | | | ●—● |

【コミュニケーション力を中心に高めたい方】

| | 1年目 | | | | 2年目 | | | |
|----------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | 春ターム | 夏ターム | 秋ターム | 冬ターム | 春ターム | 夏ターム | 秋ターム | 冬ターム |
| 教養深化特別演習(基礎)V「文章作成と表現の技術」 | | | | ●—● | | | | |
| 教養深化特別演習(基礎)VI「伝える媒の技術」 | | ●—● | | | | | | |
| 教養深化特別演習(総合)I「ニセコ・フィールドスタディ」 | | | | | | ●—● | | |
| 教養深化特別演習(総合)II「インターンシップ」 | ●—● | | | ●—● | | | | |
| サイエンスリテラシー特別演習I「科学と社会」 | | | ●—● | | | | | |
| サイエンスリテラシー特別演習III「デジタルクリエイティブ基礎」 | | ●—● | | | | | | |
| ジェネリックスキル特別演習I「キャリア形成」 | ●—● | | | ●—● | | | | |
| ジェネリックスキル特別演習II「インターンシップ事前準備」 | ●—● | | | | | | | |

【ジェネリックスキルを中心に高めたい方】

| | 1年目 | | | | 2年目 | | | |
|----------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | 春ターム | 夏ターム | 秋ターム | 冬ターム | 春ターム | 夏ターム | 秋ターム | 冬ターム |
| 教養深化特別講義「北海道学」 | | | | ●—● | | | | |
| 教養深化特別演習(基礎)V「文章作成と表現の技術」 | | | | ●—● | | | | |
| 教養深化特別演習(総合)II「インターンシップ」 | ●—● | | | ●—● | | | | |
| サイエンスリテラシー特別演習II「不確実性との向き合い方」 | | | ●—● | | | | | |
| サイエンスリテラシー特別演習III「デジタルクリエイティブ基礎」 | | | | | | ●—● | | |
| キャリアマネジメントセミナー | ●—● | | | | | | | |
| ジェネリックスキル特別演習I「キャリア形成」 | ●—● | | | ●—● | | | | |
| ジェネリックスキル特別演習II「インターンシップ事前準備」 | ●—● | | | | | | | |

2022年度 開講科目(1)

■ 授業内容紹介

教養深化科目群: 大学院共通授業科目～プログラム生限定科目～

まず、教養深化特別講義・教養深化特別演習(基礎)を2単位以上修得し、その後に教養深化特別演習(総合)を2単位以上修得する。

● 教養深化特別演習(基礎) 各1単位

人文社会科学諸分野で扱うさまざまなテーマについて多角的に分析し、複合的に把握する能力を身につける。自分の考えを論理的に組み上げ表現する能力を身につける。

古典を読む

すぐれた作品・文献で多くの人に長く読み継がれてきたものとしての一般教養的な「古典」が文化や知性の源泉であるように、学術領域においても研究の根幹を形作る、基本文献としての専門的「古典」がある。この授業では、人文科学の諸領域を中心に広義の「古典」と呼んでよいような文献を読み、新しい知的世界の扉を開く体験を重ねていく。4人の教員がそれぞれの観点から古典をセレクトして、授業を展開する。初回ガイダンスの後、毎回1点ずつ古典を取り上げる(取り上げる主な作品は以下参照)。各回担当者が内容の概略を報告し、受講者全員でディスカッションを行う。最終回は総括を行う。

古典を読む(1)

オギュスタン・ベルク『風土の日本』
アンリ・フォション『かたちの生命』
クロード・レヴィ＝ストロース『悲しき熱帯』
芳賀徹『絵画の領分—近代日本比較文化史研究』
李恢成『サハリンへの旅』
下村寅太郎『アジジのフランシス研究』

古典を読む(2)

丸山眞男『日本の思想』 白川静『漢字』
柳田国男『明治大正史世相編』 石川九揚『筆蝕の構造』
福田恒存『人間・この劇的なもの』 中村眞一郎『文章読本』



古典を読む(3)

内藤湖南『支那論』
吉川忠夫『侯景の乱始末記—南北朝貴族社会の命運』
貝塚茂樹『史記 中国古代の人びと』
島田虔次『朱子学と陽明学』
宮崎市定『科挙 中国の試験地獄』
顧頡剛『ある歴史家の生い立ち—古史弁自序』

古典を読む(4)

夏目漱石『坊っちゃん』
夏目漱石『それから』
宮沢賢治『どんぐりと山猫』
宮沢賢治『セロ弾きのゴーシュ』
坂口安吾『文学のふるさと』
坂口安吾『日本文化私観』

文書作成と表現の技術

実社会で求められる基礎能力の一つに、調査資料の作成・報告書や企画書の作成など文書の作成技能がある。専門論文の執筆でもこの種の文書の作成でも基礎にあるのは「達意の日本語を書く力」であるが、論文に一定の方法や決まりがあるように、個々の文書の作成方法にも方法論がある。その基礎となる考え方や方法論、表現技巧などを学ぶことで、広範な実務的技術の中心となる「書く力」を身につけることを目標とする。

【授業計画】

1. 表現技巧とは何か、文書とは何か(ガイダンス) 2. 文章表現の形式と表現法の基礎知識 3. 構成と論理と読得力・感性と訴求力・冗長性の制御・メモの技術 4. 日本語の特性と文章作成・必要な情報と表現(理解・提案・報告) 5. 文書に求められる文体と叙法「私」のない叙述と「私」を際立たせる表現 6. 比喩と引用、表現性と明晰性、例え話のリスク、挿話の技法、抑制と制御の構成 7. 反論と共感、実用性と実務性、読み手に抱かせる感情を予測しながら書く 8. 総括

伝える媒の技術

自らの専門とは異なる分野の専門的知識を、研究者のコミュニティの外部にわかりやすく伝える技能を実習的に涵養する。他の専門分野の知識を理解する質問力・取材力、それを他者に伝えるプレゼンテーションのスキルと文章力を身につける。さらに自分の専門的知識を明確に説明する力も身につける。また自分が理解した内容を効果的に伝えるためのスライド作成技術も実践的に身につける。

【授業計画】「専門知の面白さを伝えるプレゼン術」

1. 自分の専門知をわかるように加工する(ガイダンス) 2. 自分の専門知について説明する(プレゼンテーション) 3. 自分の専門知を活用するための視点と技法 4. 他の専門知を理解するための取材術と質問技法(インタビュー) 5. 他の専門知を正確に理解し、まとめるための実習 6. 他の専門知をうまく伝えるための構成と技法、外に広げるための実習(スライド作成) 7. 他の専門知を効果的に伝えるための説明術と話す技法(プレゼンテーション) 8. 総括・レビュー



2022年度 開講科目(2)

●教養深化特別講義 1単位

文系・理系を問わず踏まえておくべき、実社会やアカデミアで貢献する上で期待される、幅広く、奥深いリベラルアーツの基盤的素養を習得する。

北海道学

北海道について俯瞰的に捉え、多角的に理解できる基盤的能力を会得できるレベルに到達することを目指す。北海道の特質は、地域固有のものもあるが、他地域や他国と共通のものや拡張的に適用可能な課題も多く存在するので、具体的な事例をもとにそれを普遍的な問題意識として議論できる能力を身につけることを目標とする。

【授業計画】

1.北海道・日本・世界(北海道をどう把握するか) 2.歴史学からみた北海道 3.交通からみた北海道 4.教育学からみた北海道 5.地域史からみた北海道:十勝地方を事例に
6.北海道の政治・行政 7.言語学からみた北海道とそのことば 8.総括(北海道の課題と知恵) 各回の講師はそれぞれの領域を専門とする学内外の教員・研究者が務める。

●教養深化特別演習(総合) 各2単位

基礎で修得した能力を、具体的な事例や自身の研究に関連づけた実践を通して向上させ、全体を総合する力を身につける。共同作業を通じて相互理解力、チーム形成力、信頼構築力、調整力を身につける。

ニセコ・フィールドスタディ

ニセコ地区で実施する3泊4日のフィールドスタディ。事前学習+現地調査+報告からなる。地域の自然・歴史・文化・社会・経済などをグループワークを通じて総合的に学ぶ。問題解決型の思考力、共同作業に欠かせない相互理解力・チーム形成力・信頼構築力・調整力が身につく。(集中講義)



修学旅行の企画を立てる

中高生の修学旅行を企画する教員として、修学旅行の計画を立ててみる。もちろん、修学旅行で何を見て、何を体験するか、どのように見聞を広げるかなど、個々の旅程に説明すべき意義が必要で、かつ、安全性・効率性・経済性など両立させるべきいくつかの特性を現実的に考えなければならない。構想力と独自性、説明力と企画力などを養う演習。(集中講義)



インターンシップ

官公庁、企業が実施するインターンシップに参加することで、修士課程、博士後期課程修了後のキャリア形成について具体的な将来像を描くことができる。修士課程、博士後期課程で学修・研究する事柄を社会で活かす可能性について反省することで、自己の学修・研究の意義を明確に自覚することができる。1日8時間労働で5日以上のインターンシップに参加する。各自のインターンシップ体験を履修者および教養深化プログラム参加者(次年度履修予定者)に対してプレゼンテーションする。

2022年度 開講科目(3)

●サイエンスリテラシー特別演習¹単位

数理的思考やさまざまなデータの分析・活用方法を学修するとともに、北大で行われている自然科学研究の最先端の知に触れ、自らの専門的知識に基づきながら、自然科学を理解し的確に伝えるスキルを身につける。

科学と社会

人文社会科学と自然科学との接点を認識し、さらに自然科学の研究内容を伝えていくために、人文社会科学の素養をどのように用いればよいのかを理解する。北大を代表する科学者にインタビューし、自分の専門的知識をもとにして「科学と社会」との関わりについての記事を書く。特に科学技術について自分の理解した内容を的確に伝えるスキルと「質問する力」を身につけることを目標にする。

デジタルクリエイティブ基礎

プレゼンテーション、各種デザインから写真・動画投稿にいたるまで、デジタルコンテンツのビジュアル表現に必要とされる基礎技術を理解し、実際に活用することを目標にする。授業は1つのテーマにつき、講義1コマと演習・実習1コマで進めていく。

1. ビジュアル表現概論、構成+レイアウト+造形+色彩
2. 画像処理
3. タイポグラフィ
4. 映像制作

不確実性との向き合い方： リスク・ガバナンスの観点から

社会はリスクに満ちている。リスクは常に不確実性を伴うため、不確実性をどのように判断するかが重要である。不確実性の判断には、正確な情報の収集・理解は必要だがそれだけでは不十分である。情報の背後にある条件や、そこにはない情報は何かを見抜く俯瞰力も求められる。本講義では、リスク・ガバナンスの考え方から、リスクに向き合い判断するとはどういうことかを考え、実践できる道筋を身につけることを目的とする。具体的なリスクを巡る諸問題への省察と洞察ができる力を身につけるというリスクリテラシーの向上が期待される。



ジェネリックスキルクリテラシー科目群：大学院共通授業科目

●ジェネリックスキルクリテラシー特別講義¹単位

社会のさまざまな仕事環境において共通して必要となる考え方や実践的なスキル(マーケティング、マネジメント、プレゼンテーション等)を身につける。

※人材育成本部が開講する「大学院共通授業科目：キャリアマネジメントセミナー」を履修登録すること。Hi-System上で申込が必要。

キャリアマネジメントセミナー

日本を代表する企業の開発担当者を講師に招き、研究開発の成果を商品化する具体的事例から、様々な仕事環境において必要となるジェネリックスキルクリテラシー(マーケティング、マネジメント、プレゼンテーション、リーダーシップ、企画書の書き方等)を学ぶ全15回の実践的な授業。大学と企業での研究活動における考え方の違いや、基礎研究から出発したものがどのように商品化されるか、イノベーションはどのようにして起きるのか、など新たな自分を発見する参加型セミナー。



●ジェネリックスキルクリテラシー特別演習¹単位

キャリア形成に必要な知識と技能について学修するとともに、企業等の第一線で活躍するゲストスピーカーの講演等を通じて、学位取得後のキャリア形成の視野を広げ、自身のキャリアの可能性を考える。また、インターンシップに参加するための事前準備もおこなう。

※「キャリア形成」…人材育成本部が主催する指定セミナーを受講すること。Hi-System上で申込が必要。

※「インターンシップ事前準備」…キャリアセンターが主催する指定セミナーを受講すること。就職支援システム上で申込が必要。

キャリア形成

キャリア形成に必要な知識とスキル(知的財産、交渉学、アントレプレナーシップ、プロジェクトファシリテーションなど)を学ぶ。また、博士号を取得して企業の第一線で活躍する講師たちから、アカデミックポスト以外のキャリア形成の可能性を学ぶ。(集中講義)

【指定セミナー】

単位認定は下記4種のうち3種以上受講

- ・ Advanced COLA
- ・ キャリアパス多様化支援セミナー I・II・III



インターンシップ事前準備

修士課程・博士後期課程修了後のキャリア形成に備えてインターンシップに参加する際の、事前準備を行う。準備の内容は心構えやマナーの講習はもとより、インタビューやプレゼンテーションの実践を含む。上記の準備を経てインターンシップに臨むことで、学生は円滑にキャリア形成を行うことができる。

単位認定は下記4種のうち3種以上受講

キャリアセンターが主催するインターンシップ・プレ研修①、②、③、④

教養深化プログラム 2022年度 時間割

開講形式や教室は今後変更される可能性があるので担当教員からのアナウンスに留意すること

- ・ 講義題目
- ・ 担当教員名
- ・ 開講形式/時間割番号

夏ターム【6/6(月)・6/13(月)～8/5(金)】

| | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 |
|------|-----|-----|-----|-----|--|
| 1 講目 | | | | | ・ 教養深化特別演習(基礎)Ⅱ ・ 川口 暁弘 ・ オンライン/101171 |
| 2 講目 | | | | | |
| 3 講目 | | | | | |
| 4 講目 | | | | | ・ サイエンスリテラシー特別演習Ⅲ※ ・ 大沼 進 ほか ・ 対面/101169 |
| 5 講目 | | | | | ・ サイエンスリテラシー特別演習Ⅲ※ ・ 大沼 進 ほか ・ 対面/101169 |

※6/24・7/1・7/8・7/15に実施

集中講義

| 科目名 | 時間割番号 | 担当教員 | 開講期 | 開講日程 | 開講教室 |
|----------------|--------|----------|-----|--------------|---------------|
| キャリアマネジメントセミナー | 101230 | 吉原 拓也 ほか | 1学期 | | オンデマンド(毎週月配信) |
| ジェネリックスキル特別演習Ⅰ | 101179 | 川口 暁弘 ほか | 通年 | 6月・7月・8月・12月 | 対面・オンライン |
| ジェネリックスキル特別演習Ⅱ | 101180 | 川口 暁弘 | 1学期 | 5月・7月 | 対面・オンライン |
| 教養深化特別演習(基礎)Ⅵ | 101175 | 蔵田 伸雄 | 夏 | 9/12～9/14 | 対面・オンライン |
| 教養深化特別演習(総合)Ⅰ | 101176 | 宮内 泰介 ほか | 夏 | 9月に1泊2日程度 | 対面・オンライン |
| 教養深化特別演習(総合)Ⅱ | 101177 | 川口 暁弘 ほか | 通年 | 各自の日程・発表は12月 | ガイダンスはオンライン |
| 教養深化特別演習(総合)Ⅲ | 101178 | 川口 暁弘 | 夏 | 土日を利用して開講 | 対面・オンライン |

秋ターム【9/26(月)～11/21(月)・11/23(水・祝)～11/25(金)】

| | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 |
|------|-----|-----|--|--|--|
| 1 講目 | | | | ・ サイエンスリテラシー特別演習Ⅰ ・ 蔵田 伸雄 ほか ・ 対面・オンライン/101167 | ・ 教養深化特別演習(基礎)Ⅰ ・ 谷古宇 尚 ・ オンライン/101170 |
| 2 講目 | | | | | |
| 3 講目 | | | | | |
| 4 講目 | | | | ・ 教養深化特別演習(基礎)Ⅳ ・ 押野 武志 ・ 対面・オンライン/101173 | |
| 5 講目 | | | ・ サイエンスリテラシー特別演習Ⅱ ・ 大沼 進 ・ 対面/101168 | | |

冬ターム【11/22(火)・11/28(月)～2/3(金)】

| | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 |
|------|-----|--|-----|---|---|
| 1 講目 | | ・ 教養深化特別演習(基礎)Ⅴ ・ 加藤 重広 ・ オンライン/101174 | | ・ 教養深化特別演習(基礎)Ⅲ ・ 梅村 尚樹 ・ 対面/101172 | ・ 教養深化特別講義 ・ 平川 全機 ほか ・ 対面・オンライン/101181 |
| 2 講目 | | | | | |
| 3 講目 | | | | | |
| 4 講目 | | | | | |
| 5 講目 | | | | | |

■ 学びの特徴

【人文学と人間科学諸分野の総合的な学修プログラム】

研究室単位の専門科目の学修とともに、人文社会科学の諸分野を横断する学修プログラムを発展的に学び「考える力」「書く力」「読む力」「発表する力」「総合する力」をレベルアップします。

【文理融合・学際的な教育プログラム】

数理的思考やデータの分析・活用方法を学ぶとともに、自然科学の最先端の知に触れ、自らの専門知識をベースに自然科学への理解が深まり、文理の枠を越えた学際的な力が身につきます。

【社会と繋がる実践を重視したプログラム】

人材育成本部、CoSTEPと連携した実践的プログラムにより、高度なジェネリックスキルが身につきます。

■ 想定されるキャリアパス

- 教養深化プログラムで身につく力は、社会のあらゆる職業で役に立つ力です。各自の専門分野の研究をさらに深めるとともに、人文社会科学諸分野の総合的な学修と、社会で役立つジェネリックスキルを学修することにより、社会のさまざまなセクターで、高度な専門知識を有し即戦力となる人材として活躍が見込まれます。
- 博士後期課程進学者や、将来アカデミックポストを目指す人にとっても、学際的な研究視野を培い、今後の研究活動に役立つ知識とスキルを身につけることができます。

■ 指導体制・専門教育との関係・就職

- 専門科目は指導教員が指導、教養深化プログラムはプログラム教員が担当し、両者の連携により、無理のない履修計画を確保します。
- セメスター科目、集中講義を多く取り入れ、就職活動やインターンシップに配慮したカリキュラムを設定します。
- 専門科目とできるだけ重ならない時間帯に開講するよう配慮します。
- 各大学院の規定により教養深化プログラムで取得した単位の一部を大学院共通授業科目として修了要件の一部とすることができます。
- 1科目1単位から受講することができます。5単位以上取得することでプログラムの履修を証明をします。規定の10単位以上取得することでディプロマを授与します。
- 留学生も受講することができますが、授業はすべて日本語で行われます。日本語能力試験でN1取得程度の日本語能力が必要です。
- 人材育成本部所属のキャリア担当の教員を中心に学内外と協力し、きめ細やかな就職支援を行います。（キャリア相談、インターンシップ紹介等）
- 博士後期課程に進学する人にも、今後の研究活動に有益な知識とスキルを提供します。
- 博士後期課程の学生を支援する「DX博士人材フェローシップ制度」の採用審査において、教養深化プログラムを受講すること/修了していることは評価の対象となります。

お問い合わせ

教養深化プログラムについて質問がある場合は、以下の担当教員に相談してください。

- ・ 教養深化プログラム事務局 cuenp@let.hokudai.ac.jp
- ・ 平川 全機(文学研究院・教養深化プログラム担当) hirakawa@let.hokudai.ac.jp

【教養深化プログラムWEBサイト】
<https://cep.let.hokudai.ac.jp>

